



# 防災 まちづくり 瓦版

発行／一寺言問を防災のまちにする会

平成14年12月10日

いちてらこととい  
**一寺言問／防災まちづくり瓦版**  
 編集／一寺言問を防災のまちにする会・編集局  
 発行／一寺言問を防災のまちにする会  
 代表 則武 勝商  
 連絡先／墨田区まちづくり推進課内  
 〒130-8640 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel(5608)6261

一言地区とは、向島五丁目、東向島一丁目、同三丁目、堤通一丁目全域のことです。地区内の一寺小と言問小の名をとり、「一言会」(正式には一寺言問を防災のまちにする会)と名付け、住民主導の防災活動を、十七年余にわたって続けています。

一九八五(昭和六十)年に、東京都の防災モデル地区としてスタートした「一言地区」は、平成九年には「第一回防災まちづくり大賞」で自治大臣賞(大賞)を受けました。さらに、地域住民のコミュニケーション(対話や交流)の厚さが、防災面だけでなく多くの住民の日常活動の模範とされ、今や、各種の芸術や学術、文化活動などの「情報の集中と発信の中心基地」として、新しい発展を示しつつあります。

「瓦版第四九号」は、一言集会所(東向島一の一)を中心に繰りひろげられている「文化活動」その他をご紹介します。

## 下町文化の発信基地 —寺言問地区に各地が注目

◇千葉県幕張市の「住みよい幕張を考える会」は、五月九日に約三十名で一言地区を訪れ、機関紙「馬加(まか)通信」の創刊号(今年五月発行)では、「一言地区見学記」をほぼ全面(四ページ中三ページ)で取り上げ、「幕張駅前の三角地活用」などのユニークな活動への参考としています。

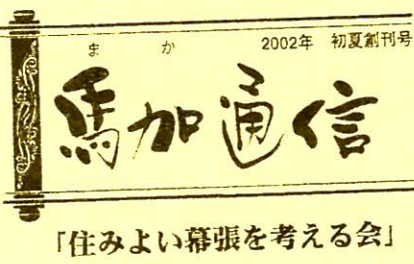
◇六月には、なんとマレーシア政府から派遣された二十名の若い役人さんが、日本の下町から「国づくり」「人づくり」を学ぼうと一言地区へやってきました。

◇同アジアの先進地区・日本の「下町」に学んで、新しい「国」を創ろうとするかの国の先駆者たちの気概に、少なからず圧倒されるひと時でありました。

◇神奈川県藤沢市からは、地域の防災だけでなく、旧住民と新住民の融和などのテーマを掲げて、長後地区(昨年秋)と明治地区(十一月)の二つの防災まちづくり団体が、別々に来訪されました。

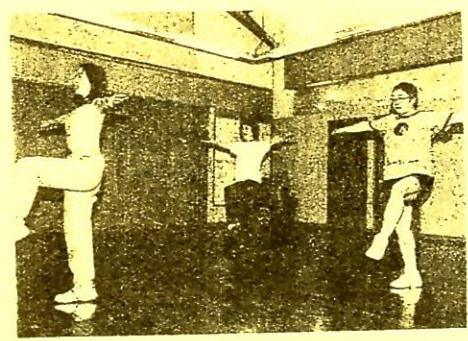
◇いわゆる新開地の人々の、一言地区の歴史や実績に学ぼうという姿勢には、こちらも襟を正すことが多々あります。

(別掲見学団体一覧表をご参照ください)



**楽しいサークル活動**  
 一寺言問集会所は、さまざまなお楽しみ活動にも利用(すみませんけれど有料です)されています。

これらの活動に参加されたい方、集会所を利用したい方などは、一言会理事の萩原昭作(東向島一の一八 萩原商事)さんまでお申し越しください。



【写真①】

◇火・木曜の夜は、エアロビクスでシェイプアップ。若さと健康は、下町のバイタリティ(活力)のもと。集会所の大きな鏡も大いに役立っています。【写真①】



【写真②】

◇第二・第四日曜には、年少少女の「剛柔流空手」の道場となります。

師範の裂はく(はく)の気合いと、生徒さん達の応ずる気合いが集会所に響くさまは、一見の価値があります。小学生から大人まで、男女を問わず入門できます。【写真②】

◇十一月二十四日には、新日本フィルハーモニーのメンバーであり、一言地区(向島五)に住む中谷孝哉・幸子さんご夫妻による「マリンパフォーマンス」も開かれました。【写真③】



【写真③】

この夏、一言集会所を研究基地として、早稲田大学と東京理科大学の学生さんによる「住まいの研究」が展開されました。

七月から八月にかけて、主としてマンションに住む方の、住まいに関する意識調査を中心とするアンケートなどが行われ、十月二十七日には、建築や下町研究者を集めて、キラキラ会館(京島三)で「研究発表会」を実施しました。

**地区外へ防災ノウハウ伝授**  
 十一月十六・十七日、板橋区で「安全安心まちづくりワークショップ」が開催され、一言会理事の佐原滋元さんが「防災とコミュニティ地域福祉」の分科会で、わが地区の活動と成果の報告を行いました。

向島の濃密な人間関係に裏打ちされた「防災には隣近所との交流と相互理解が必要」という一言地区の発表は、六十を超える参加団体への大きな提言となりました。

**続々訪れる見学団体**  
 路地尊・有季園・会古路地などユニークな施設を開発した「防災先進地区」である一言地区には、全国各地の防災まちづくり団体が見学に来ます。

